

昭和十年十一月三十日
東部地區防衛隊司令部

第一防衛擔任區域内一般情勢

一、治安維持ノ狀況

本秋季肅正ハ各部隊ノ適切果敢ナル行動ト不
撓ノ努力トニ依リ偉大ナル成果ヲ収メ管内匪
賊ハ其ノ根據ヲ覆滅セラレ匪勢著シク衰滅シ
匪首李三俠ハ靖安軍騎兵第一連ニ依リ討滅セ
ラレタルモ其ノ他ノ主要ナル有力悪性匪首ヲ
捕捉スルニ至ラズ且殘匪掃蕩ノ手ヲ緩ムルニ
於テハ匪勢再ヒ抬頭輓回スルノ惧ナシトセス
(一) 匪賊情報
月末ニ於ケル管内匪賊分布狀況附圖第一ノ

0017

如シ

一、東寧縣、穆稜縣匪情

李三俠

匪首李三俠ハ十一月十二日東寧縣西北溝
 南方約千五百米稜線上ノ独立家屋ニ其ノ
 傳令ト共ニ潜伏中ヲ靖安軍騎兵第一連長
 茂木上尉ノ急襲ヲ受ケ遂ニ殪ル其ノ後
 部下匪首王徳全ノ歸順ノ意ヲ洩シアルヨ
 リ該匪團ノ崩潰モ遠カラサルヲ思ハシム
 2. 孔憲榮、吳義成
 孔憲榮ハ巧ニ討伐ノ鋭鋒ヲ逃避シアリテ
 或ハ入蘇シタリトモ或ハ寧安縣西南方南
 湖頭方面ニ移動シタリトモ或ハ穆稜縣大
 城廠附近ニ到リ四散セル部下ノ収集ニ腐

心シアリ等ト稱セラル、又其ノ所在ハ依
然明ナラス
吳義成亦然リト雖又遠ク地盤ヲ捨テ、遁
避シアルコトハ遽ニ之ヲ断定スルヲ得ス
若シ一時討伐ノ銳鋒ヲ避ケテ討伐地帯外
ニ潜伏シアリトスルモ我カ計匪行動ノ手
ヲ緩ムルニ於テハ再ヒ舊蟠踞地方ニ跳梁
スルノ公算アリ

3. 仁義

依然大綏芬河南北地區東甯縣ニ道崗子、通
溝附近ニ小匪群ニ分散潜伏シアリ

4. 劉三俠

井上討伐隊第二期討伐ニ於テ細鱗河西方
標高858高地一帯ノ本據ヲ根底的ニ覆滅セ

0019

ラレ鐵道線路以北ノ地區ニ逃避シタルモ

5. 双江

大石頭河子泉眼河對頭拉子附近ヲ轉々移動シアリタルモ穆稜警備隊及興源鎮警察隊ノ爲再三討伐セラレ多大ノ損害ヲ蒙リ部下ハ歸順ノ意思濃厚ナリト

6. 東山好殘匪

任子ヲ匪首代理トセル東山好殘匪ハ十月三十日馬橋河分駐西本小隊ノ急襲ヲ受ケ殲滅的打撃ヲ蒙リ西北方山中ニ遁走セリ

7. 九標

九標ハ巧ニ討伐ノ銳鋒ヲ避ケ其ノ所在ヲ察知シアルモ依然トシテ磨刀石南方密林

0020

内或ハ拾馬溝西北方密林中ニ潜伏シアル
コト確實ナリ

二、宥安縣匪情

1. 周保中

所在明カナラサルモ鏡泊湖南端地區ニ遁
棲シアルコト略ニ確實ナリ

2. 平南洋

平南洋匪約八〇名ハ斗溝子附近ヨリ横道
河子方面ニ移動中十月二十八日吉本討伐
隊松村小隊ノ追及ニ遭ヒ交戦約一時間半
多大ノ損害ヲ蒙リ西南方ニ潰走シ其ノ後
鏡泊湖西方山中ニ潜伏シアルモノ、如シ

3. 占中萃

吉本討伐隊ノ為其ノ根據地ヲ覆滅セラレ

三

0021

其ノ後南部天橋嶺及其ノ東方ニ潜伏シアルモノ、如シ

4. 愛民

愛民匪ハ北部天橋嶺附近ニ於テ吉本討伐隊赤羽中隊ノ為再三急襲セシレ殲滅的打撃ヲ蒙リタルニ匪團ハ巧ニ討伐ノ鋭鋒ヲ避ケ依然天橋嶺附近ヲ移動蟠踞シアリ

5. 候國忠

十一月月上旬羅子溝附近ヨリ寧安縣ニ移動シ老爺廟北方約七料^約高地山寨ニ蟠踞シアリシカ其ノ約七八十一月十七日田中中隊ノ急襲ニ遭ヒ續テ移動中ヲ陳家嶺南方ニ於テ倉田小隊ノ攻撃ヲ受ケ共ニ多大ノ損害ヲ蒙リ潰乱ス

十一月二十二日日本匪ノ約セ。名ハ二道河
子東北方向約八料密林内山寨ニ在リシカ三
浦騎兵小隊ノ果敢ナル急襲ニ遭ヒ大打撃
ヲ蒙リ西北方ニ潰走セリ其ノ後巧ニ我
討伐ヲ避ケアルモ本匪團ハ甯安縣南方縣
境附近ニアルナラン

高史忠恒

本匪ハ十一月十五日老爺廟北方約八料北
部ノ高地附近密林内ニ休宿中ヲ天野中隊
ノ急襲ニ遭ヒ殲滅的打撃ヲ蒙リ鏡泊湖南
端ニ潰走セルモノ如シ高史忠恒ハ本
春皇軍ノ為受ケタル腰部ノ負傷再發化膿
シ全ク歩行シ得ス部下ニ擔ハレ逃亡セリ

0023

久九站

依然鏡泊湖南端地方ニ蟠踞シアリテ我カ
大脇小隊ノ為再三大打撃ヲ蒙リタルモノ
ノ如ク目下歸順意思濃厚ナルヲ歸順ニ自
警團或ハ山林隊編成等ノ條件ヲ附シアリ
ヲ歸順成立ニ至ラス

三 密山、虎林縣匪情

一 徐傑山

徐傑山匪約ニ。ハ十一月五日夜向陽圖
佳線附近ヲ通過三道河子方面ニ移動セル
モノ、如シ尚本匪ハ衣類糧秣ニ窮シ歸
順ノ意ヲ表明シアリト

二 李延祿

九月下旬饒河支隊高木中隊ノ為多大ノ損

0024

害ヲ受ケ其ノ後若干ノ手兵ヲ率ヒ哈府ニ
逃避シアリト

3. 胡仁

勃利、穆稜、密山縣境ニ蟠踞横行シ反日満的
宣傳ヲ為シアリシ胡仁ハ部下六〇名(鮮人
匪ニ。餘名ヲ含ム)ハ十一月上旬百草溝(八
面通西方約八料)方面ニ移動シ目下同地附
近ニ潜伏シアルモノ、如シ

四、匪賊ノ通蘇情況

歸順匪双林ノ言ニ依レハ同匪ハ武器彈藥
ノ補充ニ就キテ本年六月乃至七月三回ニ
亘リ蘇聯ヨリ越境潜入セル自衛軍連長ト
自稱セル滿人王文相ト密山南方蜂窠山ニ
テ會見銃器ノ授受ヲ行ヘリ

0025

其ノ狀況左ノ如シ
一、第一回會見狀況

双林ノ蜂蜜山ニ蟠踞中六月十日頃蘇領
金葦高力(老黑背對岸)ヨリ潜入セル王ト
會見シ滿洲國ヲ攪乱シ救國ノ大義ヲ全
フスヘク資金並武器彈藥ノ補給ヲ約セ

二、第二回會見狀況

六月二十日密山東南石場ニテ王連長ト
會見シ連銃五(彈藥百發附一挺七八十圓)
套筒五(彈藥百發附一挺六七十圓)ヲ註文
シ次回ノ會見ヲ約セリ

三、第三回會見狀況

七月十日小興凱湖北方城子河東南方ニ

五

0026

4. 十満里ノ地點ニ於テ會見ス
 王ハ三頭ノ馬ニテ持參セシ銃器ヲ出シ
 授受ヲ行ヒ滿洲國打倒ノ節ハ大ニ優遇
 スヘキヲ誓約セリ
 4. 双林ノ讓受ケタル武器彈藥數左ノ如シ

種類	連銃	套銃	彈藥
員數	五	五	三〇〇
單價	八〇〇	七〇〇	一五
計	四〇〇	三五〇	三〇〇〇

5. 自衛軍ノ概況
 自衛軍トハ事變前ノ中國軍隊ニテ蘇聯
 = 逃亡シタル不良分子ヲ蘇聯ノ改編シ
 タルモノ如シ
 自衛軍ハ蘇聯各地ニアリテ金葦高力ニ

0027

(二)

在ルハ王個人ノ部隊ノモ、如シ

治安工作狀況
各治安工作班ハ各討伐隊及各分散配置部隊
ト密接ナル連繫ヲ保持シ、武力討伐ニ相併行
スル工作ニ依リ討伐効果ノ擴大強化ト肅正
清郷ノ實ヲ擧ケツ、アリ

第一治安工作班
前月ニ引續キ本月上旬迄東甯縣下奧地工
作ニ任シアリシモ中旬ヨリ小綏芬河附近
ノ工作ニ移リ次テ再ヒ金廠通溝方面ノ僻
地山間部落ノ工作ニ當リツ、アリ
本工作班ハ元中國共產黨員タリシ鮮人婦
人黃正善ヲ利用シ共產黨ノ内情轉向ノ動
機轉向後ノ心境、日本及日本軍隊ノ使命等

0028

之
 鮮人ニハ多大ノ感動ヲ與ヘ其ノ効果見ル
 ヲ講演宣傳セシメツ、アル所一般民殊ニ
 へキモノアリ
 工作班ハ十一月十八日ヨリ小綏芬河工作
 =任シタルカ小綏芬ハ濱綏沿線東部地區
 =於テ通匪ノ疑濃厚ナル村落ニシテ在民
 ノ大部ハ山東人ヲ以テ成リ附近横行匪亦
 山東出身ナル關係ヨリ軍隊ノ常駐警察署
 長ノ人選ヲ嚴ニシアリシニ拘ラス其ノ禍
 根ヲ絶ツ能ハサリシヲ以テ十九日朝一齊
 檢索ヲ行ヒ保長以下三十一名ノ通匪者及
 容疑者ヲ檢擧シ以テ汚染セル當地清郷ノ
 實ヲ擧ケタリ
 第二治安工作班

0029

濱綏線沿線工作ニ引續キ本月上旬ヨリ穆稜
 鐵道沿線ニ移リ八面通附近一帯ノ工作
 ニ從事シアリシカ下旬ヨリ密山縣ニ入リ
 主トシテ林密線沿線ノ工作ニ當リ成果ヲ
 上ケツ、アリ
 民間銃器回收工作
 穆稜縣下ニ於ケル民間銃器ノ回收ヲ期
 シ工作班指導ノ下ニ縣治安維持會ノ隸
 下ニ銃器回收委員會ヲ組織シ保甲制度
 ヲ活用セシメ回收ヲ行ハシメタル結果小
 銃ニ六拳銃一々回收スルヲ得タリ
 口自衛團
 穆稜縣自衛團ハ工作ノ指導ニ依リ一般
 ニ素質向上シ訓練亦普及シ從來積極的

0030

計、伐ニ從事シアリシカ本年九月興源鎮
自衛團ハ紅眼河自衛團ト協力シ、匪首双
俠ヲ殲滅セシヨリ一般ニ其ノ刺戟ヲ受
ケ且計匪ニ對シ自信カヲ有スルニ至リ
通信ノ完備ト相俟テ積極的計、伐ヲ敢行
シ其ノ効果甚カラス所謂保甲自衛ノ實
ヲ擧ケツ、アリ

3. 第七治安工作班

主トシテ吉本計、伐隊第二期計、伐區域内ノ
工作ニ當リ計、伐並從軍宣傳班ノ宣傳ニ相
併行スル工作ヲ實施シ計、伐成果ノ擴大ニ
努メツ、アリ
本工作班カ工作對象ノ重點ヲ特ニ婦女子
ニ置キ女宣傳員ヲ利用シアルハ計、伐成果

0031

ヲ
一
層
擴
大
シ
效
果
大
ナ
ル
モ
ノ
ア
リ
ト
信
ス
ハ

0032

二、警備討伐状況

防衛隊 八十一月二十日ヨ以テ一先ツ秋季

正ヲ打チ切リ逐次冬季分散配置ノ態勢ニ轉

移シ爾後ノ肅正ヲ準備中ナリ

防衛隊司令部

防衛隊長ハ所要ノ機關ヲ從ヘ討伐竝ニ治

安諸工作指導ノ夕メ尤ノ如ク出勤セリ

田村討伐隊方面

十一月三日横道河子ニ前進シ多田部隊

ノ討伐指導ヲナシテ四日在海林田村

討伐隊本部ニ於テ同討伐隊及柳川砲兵

部隊ノ討伐ヲ指導シ爾後ニ於ケル討伐

ニ關シ所要ノ指示ヲ共フ

口、穆稜縣八面通方面

九

0033

十月八日掖河発八面通ニ前進シ直ニ縣
 公署ニ入り治安諸工作ヲ指導シ翌九日八
 面通東南方六料西茶館ニ於ケル第二治
 安工作班ヲ指導ス、部落民ハ防衛隊長ノ
 來村ニ感激シ日滿國旗ヲ掲ケテ萬歳ヲ
 称ヘテ迎ヘ既ニ無言ノ宣撫價值ヲ表ハ
 シタルヲ窺ル
 尚其ノ後ノ情報ニ依レハ該指導効果如
 實ニ顕現シ同地自衛團ハ強化ヲ見ルニ
 至レリ
 ハ、東寧縣北部地方
 十一月十七日掖河發綏芬河ニ前進シ翌
 十八日小綏芬河ニ於テ太田討伐隊竝ニ
 第一治安工作班^子ヲ指導ス、工作第一日ニ

0034

於ケル防衛隊長ノ視察並ニ指導ハ工作
熱ヲ一層昂上シ一般工作ノ外徹底的通
匪事實ヲ摘発シ以テ至大ノ刺戟ヲ與ハ
汚染セル同地清郷ノ實ヲ拳クルヲ得夕

2. 井上討伐隊

東甯西南方地區ヲ主討伐地域トシ討伐ニ

任シ多大ノ成果ヲ收ム

特ニ區處下靖安軍騎兵第一連ハ匪首李三

俠ヲ討滅セリ

3. 吉本討伐隊

甯安縣南部地區ヲ主討伐地域トシ討伐ニ

任シ多大ノ成果ヲ收メ爾後ニ於ケル肅正

ヲ掖河^地委讓シ十一月二十七日原駐地ニ

十有

0035

歸還セリ
 討伐隊ハ更ニ史忠恒侯國忠等ノ率ユル約
 三百名ノ匪群カ汪清縣方面ヨリ潛入セルノ
 情報ヲ得討伐ヲ延期シ十一月ニ包圍攻撃シ
 曉該匪團ヲ先爺廟東北地區ニ包圍攻撃シ
 本季討伐掉尾ノ成果ヲ獲得セリ
 泉名部隊又本討伐ニ参加シ更ニ三日間討
 伐ヲ延期シ其ノ成果ヲ擴大シ十一月三十
 日牡丹江発哈市ニ歸還セリ
 4 田村討伐隊
 十月十八日掖河ニ移駐シ直ニ寧安縣北部
 地域ノ肅正ニ任シ密林地帯ノ徹底的掃蕩
 ヲ實施ス之カ夕メ極度ニ疲勞困憊セル匪
 賊ヲシテ歸順若ハ自滅ニ至ルヘキヲ痛感

0036

其ノ三ノ如シ
 其ノ三ノ討伐行動別紙附圖第三其ノ一其ノ二
 防衛隊部隊態勢要圖附圖第二其ノ一其ノ二
 討伐=任シ其ノ成果ヲ拈大セリ
 柳川砲兵部隊ハ田村討伐隊長ノ指揮下ニ
 蟠踞セシ義徳匪ノ勢力ハ完全ニ消滅セリ
 茲ニ於テ濱綏線以北牡丹江(川)ノ名以西ニ
 セシノ遂ニ義徳匪ノ歸順ヲ見ルニ至レリ

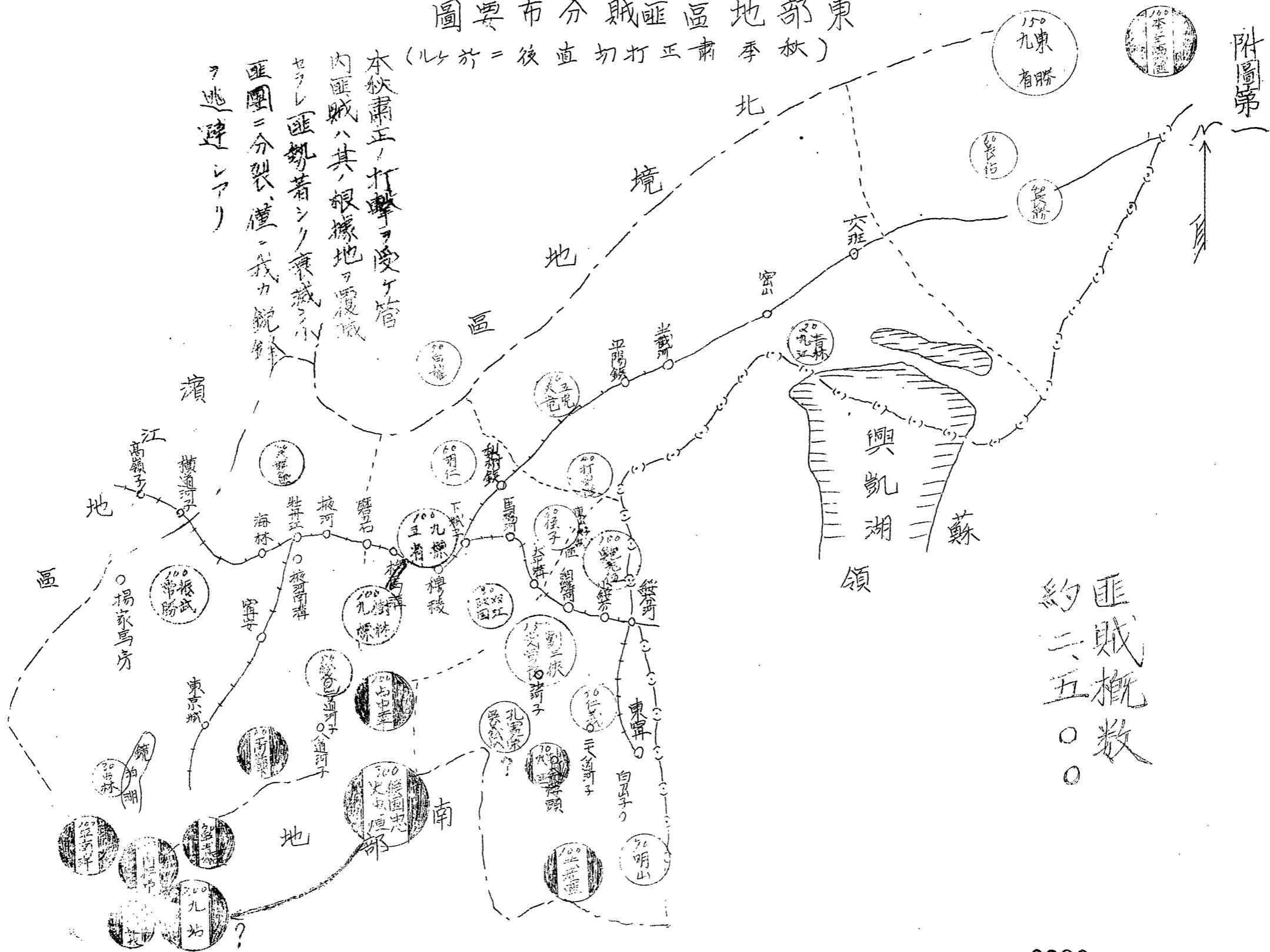
十七

0037

東部地區匪賊分布要圖

(秋季肅正打切直後之於ル)

本秋肅正ノ打撃ヲ受ケ管
内匪賊ハ其ノ根據地ヲ覆取
セラレ匪勢著シク衰滅シ小
匪團ニ分裂、僅ニ我カ銳鋒
ヲ逃避シアリ

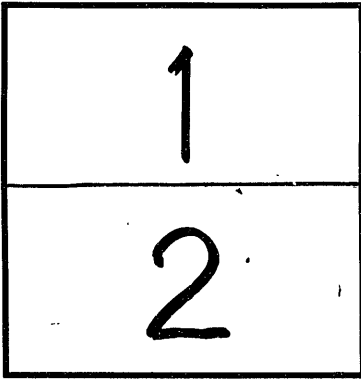


匪賊概數
約二五〇〇

附圖第一

0038

分割撮影ターゲット

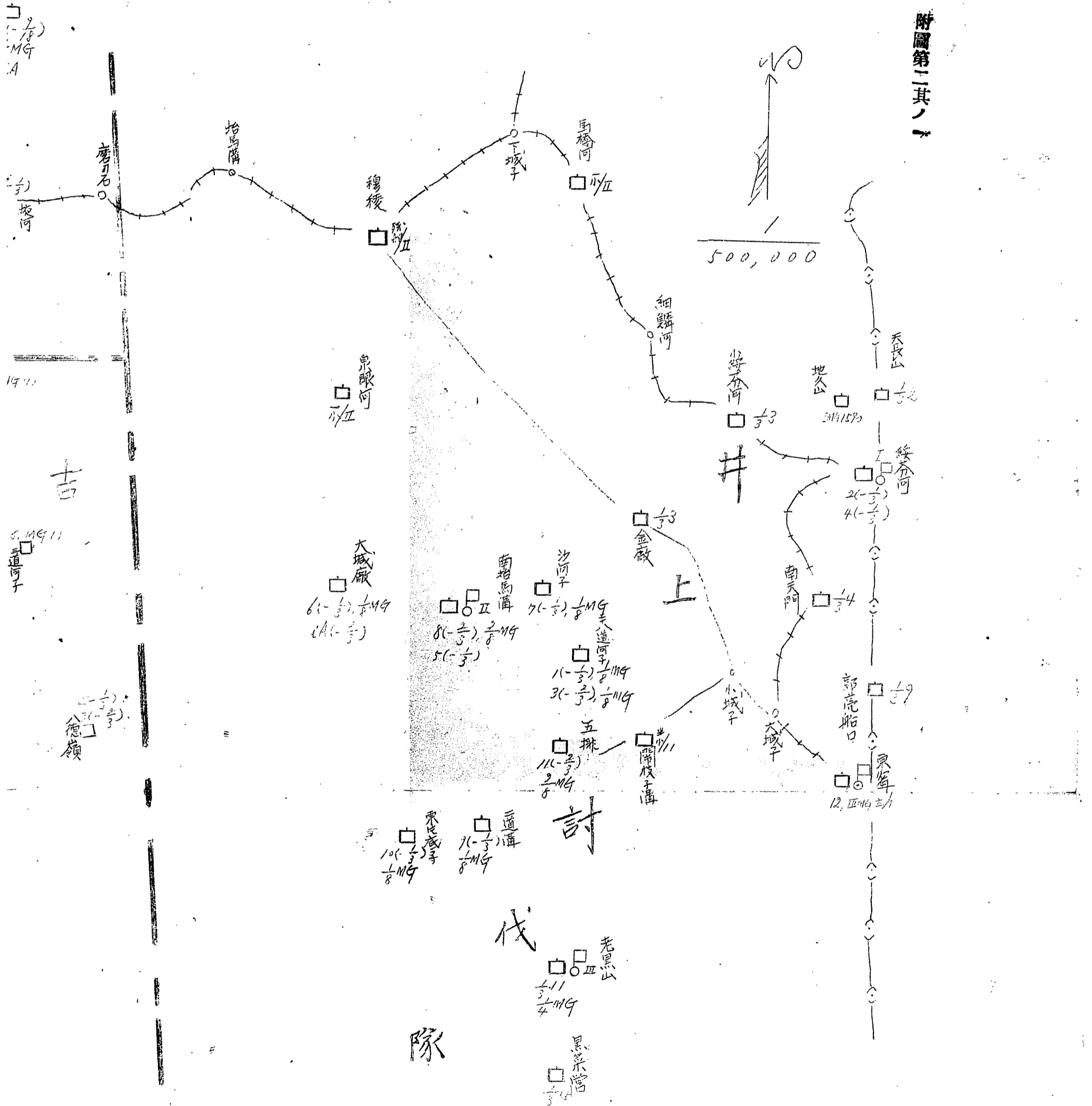
分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	東部地区防衛隊討伐 第2期初に於ける部隊態勢要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

0039
0040

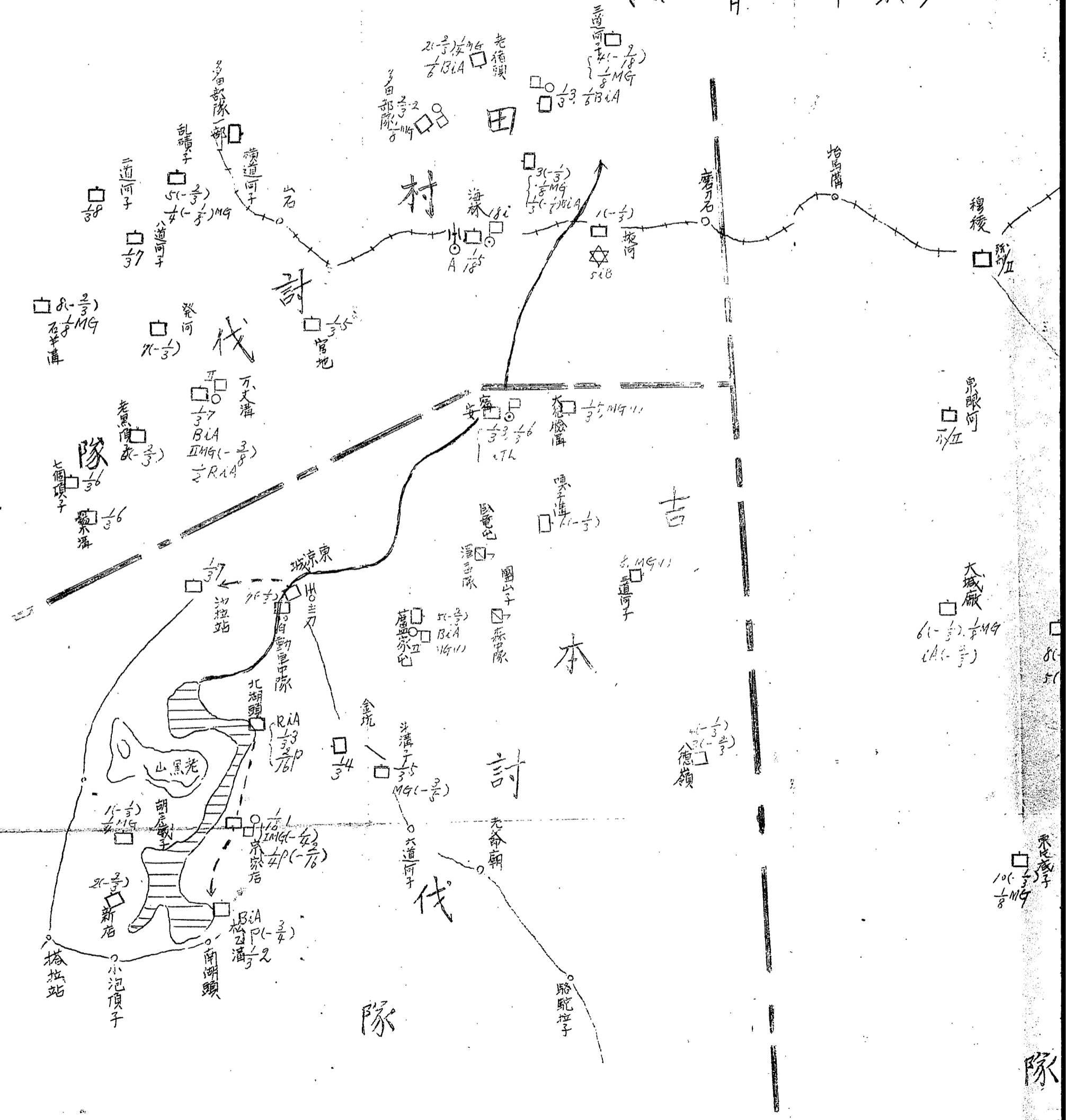
東部地區防衛隊討伐第二期之初於

(於十一月一日)

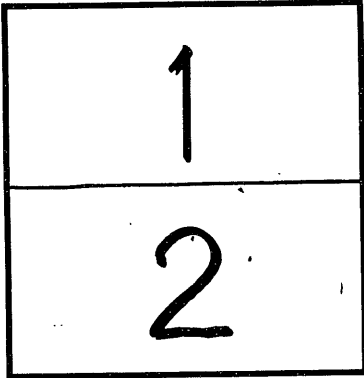
附圖第二其ノ一



圖要勢態隊部ル於二初期二第伐討隊
(日一月一十於)



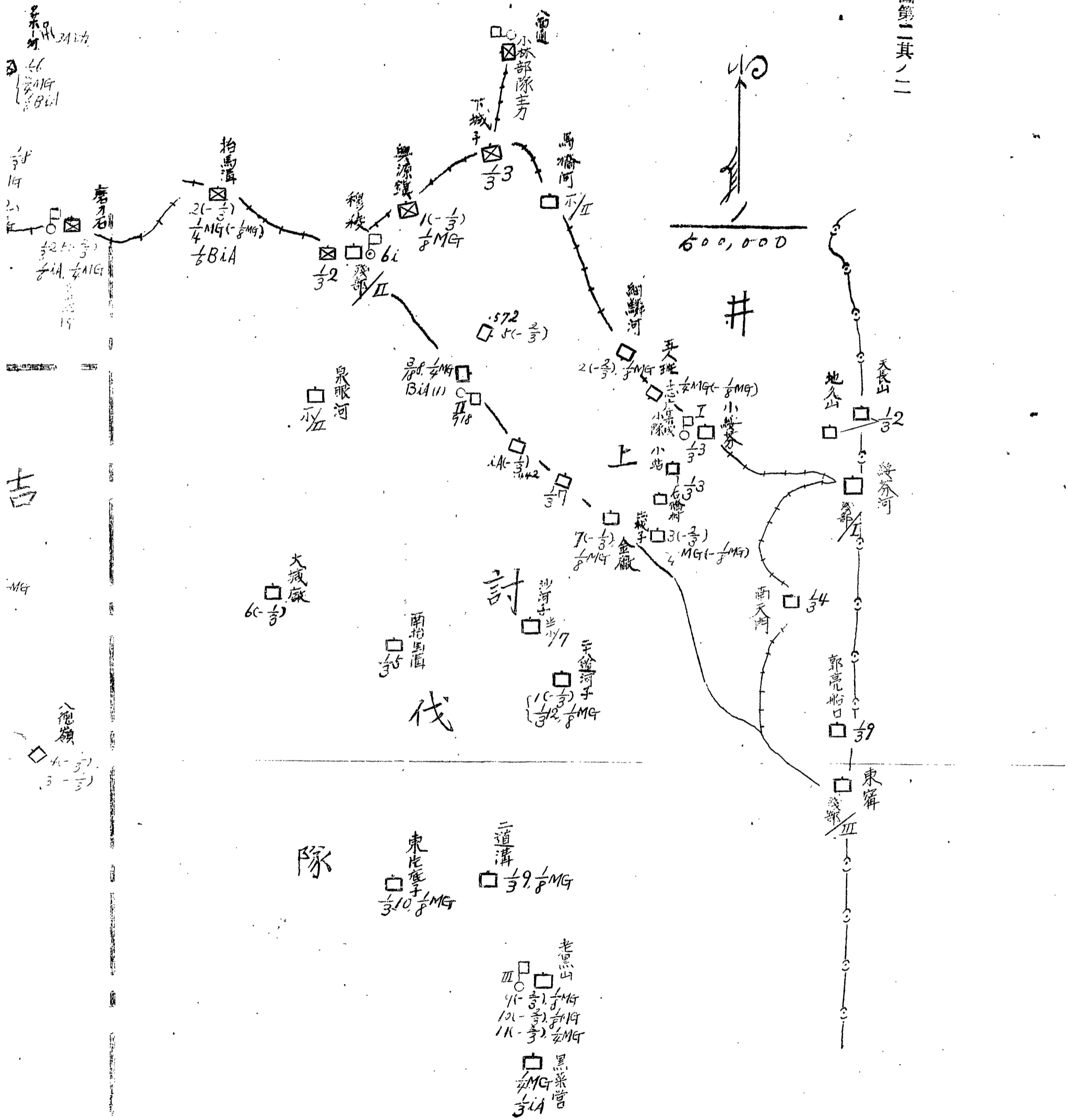
分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	東部地区防衛隊討伐第2期 11月10日に於ける部隊態勢要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

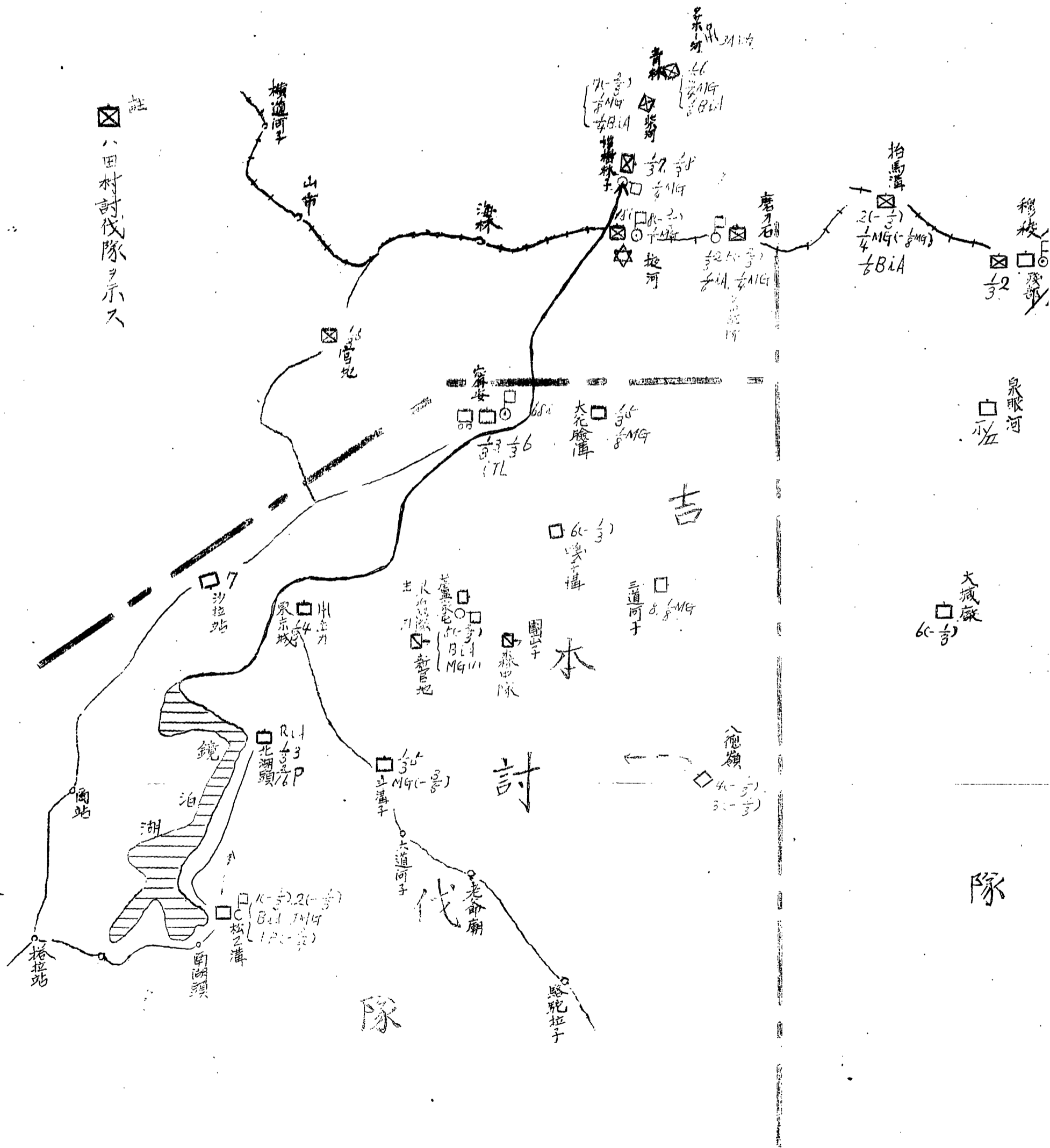
0041
0042

於二月十日一十一期=第伐討隊衛防區地部東

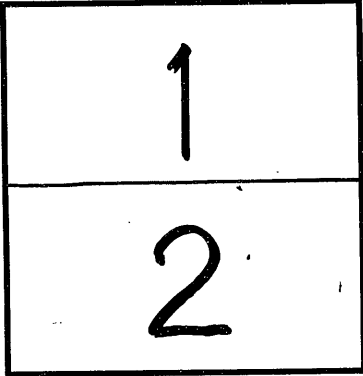
附圖第二其一二



圖要勢態隊部ルケ於二日十月一十期二



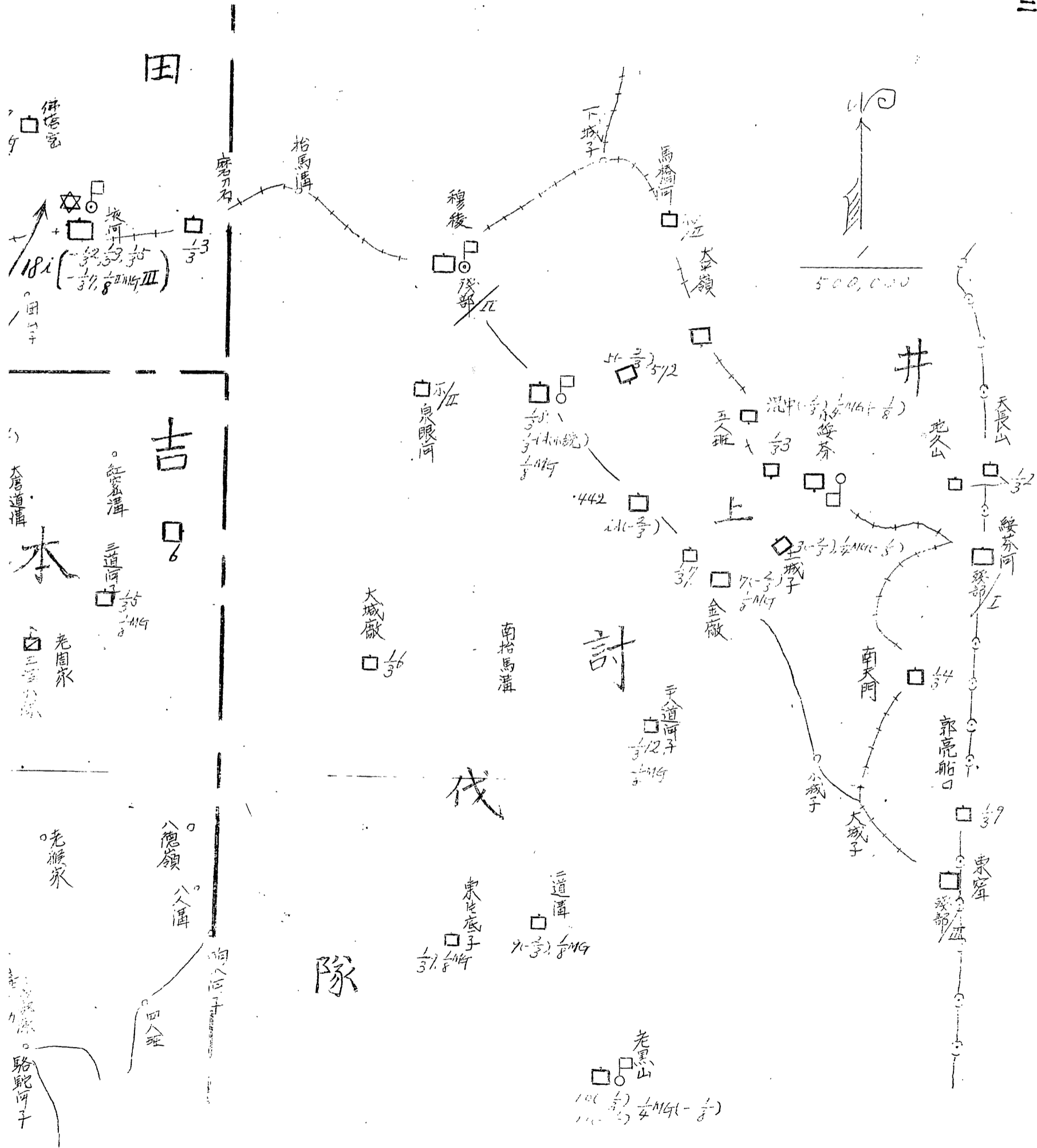
分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 版以上のため
文書等名	東部地区防衛隊討伐第2期に於ける部隊態勢要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

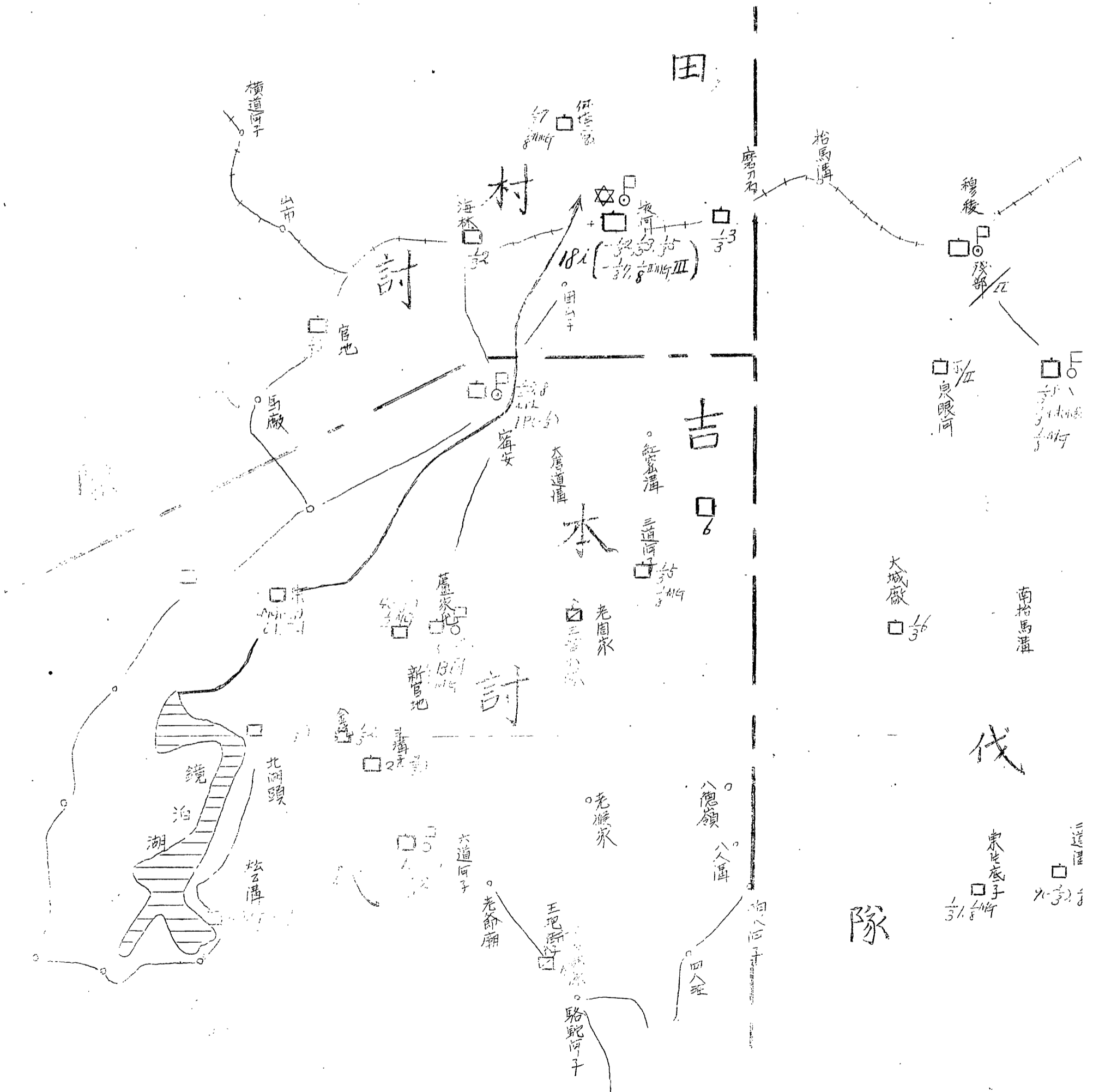
0043
0044

附圖第二其ノ三

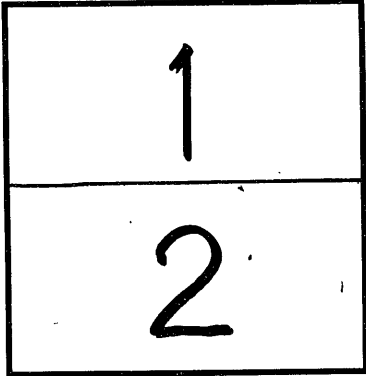
東部地區防衛隊討伐第二期於於部態勢
(於十一月二十日)



圖要勢態隊部ルケ於二期二第伐
 (日十二月一)



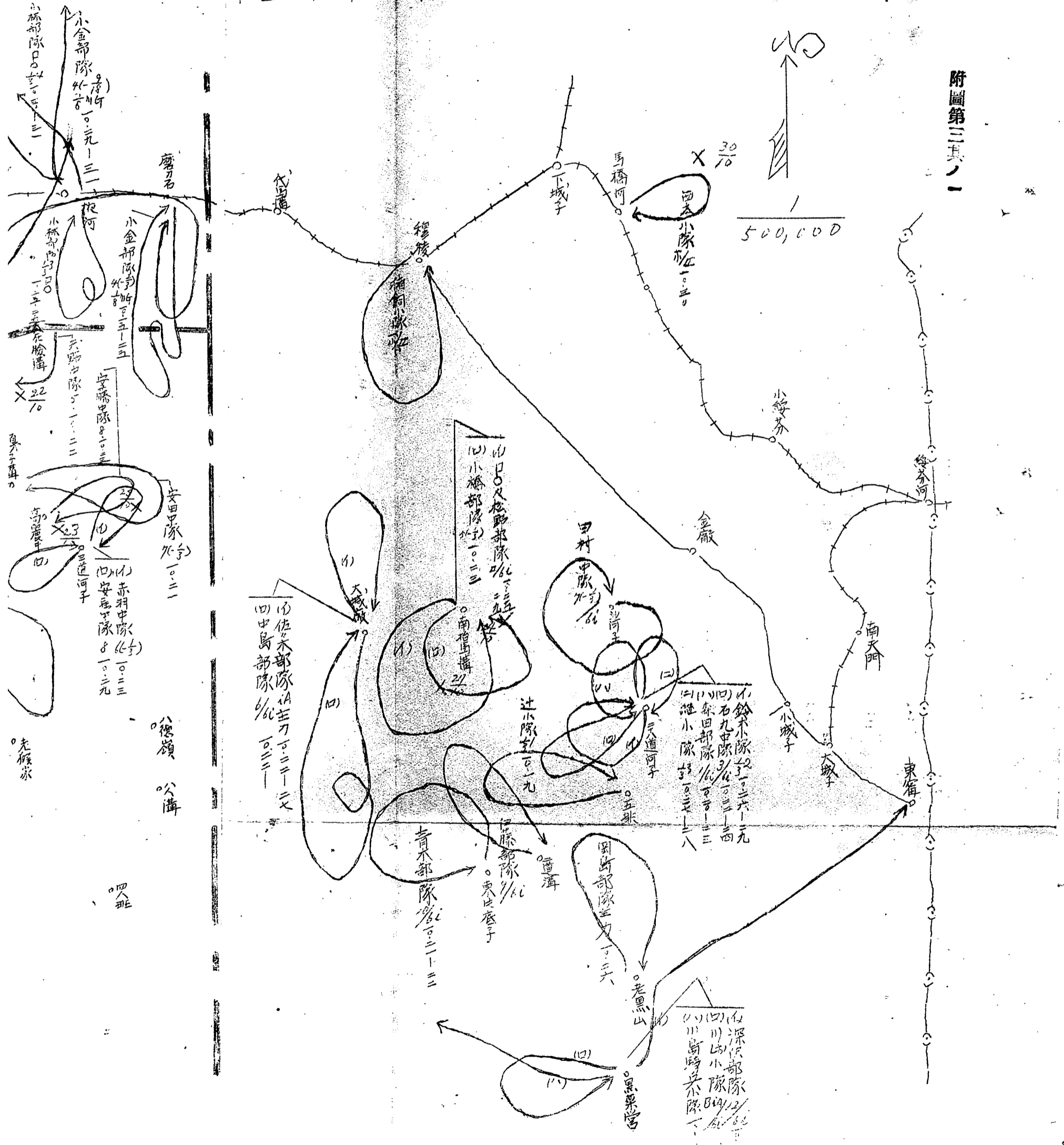
分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 版以上のため
文書等名	東部地区防衛隊討伐第一期に於ける討伐行動要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

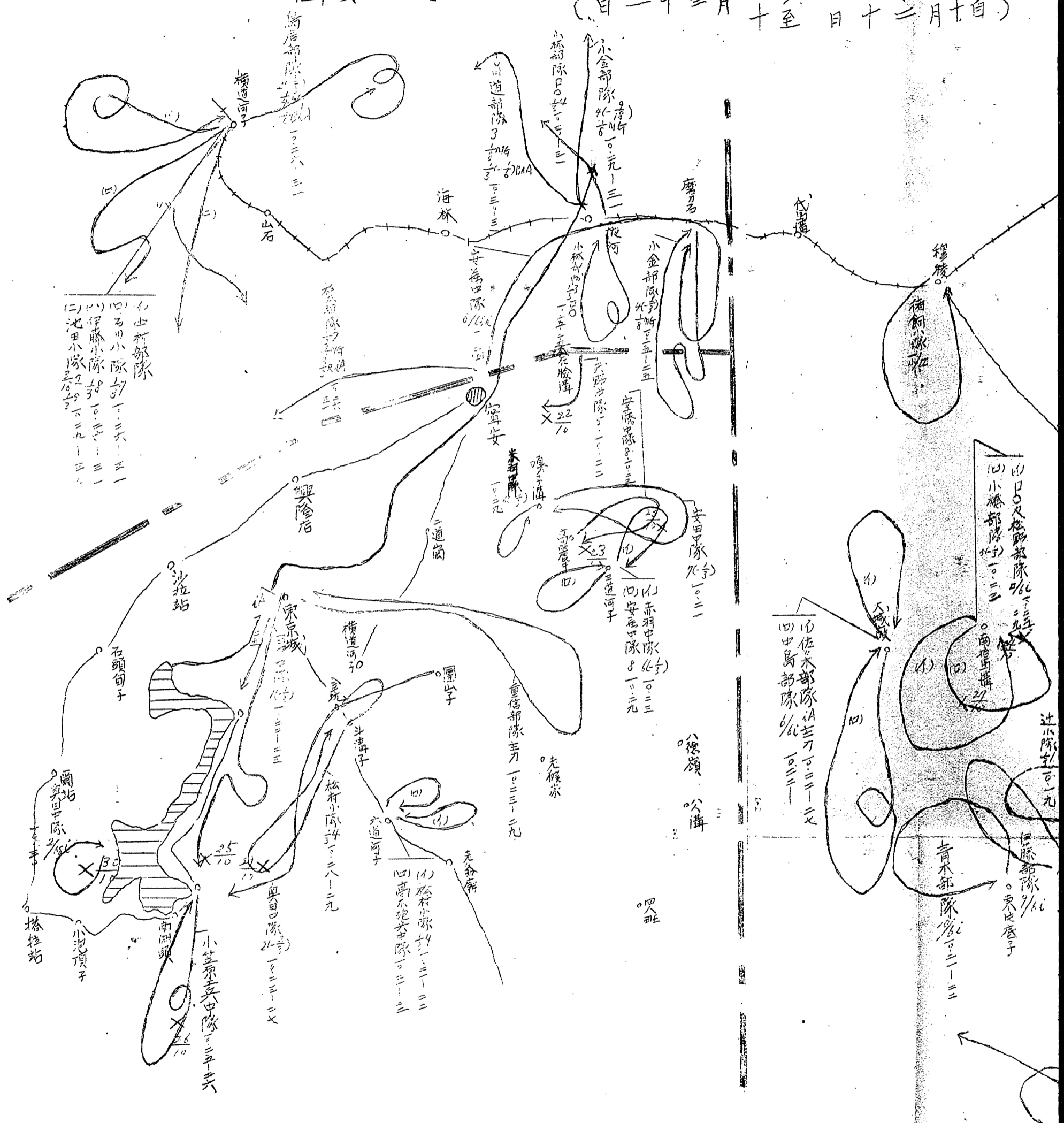
0045
0046

東部地區防衛隊第一期二於於
(日一十三月 十至日十二月十自)

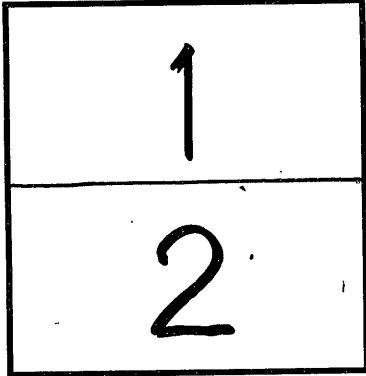
附圖第三其ノ一



防衛隊第一期討伐行動要圖
 (自十月十二日至十一月一日)



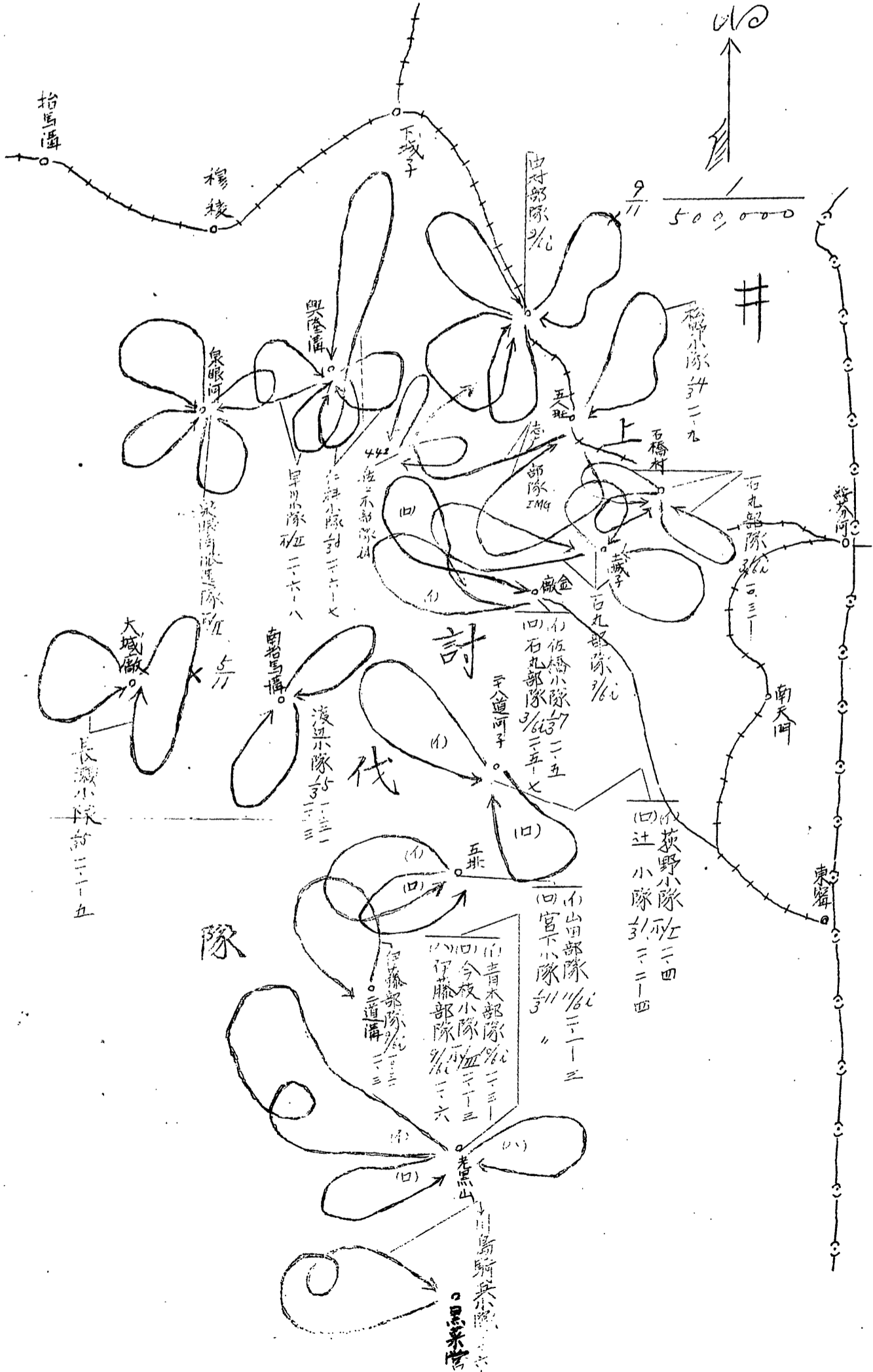
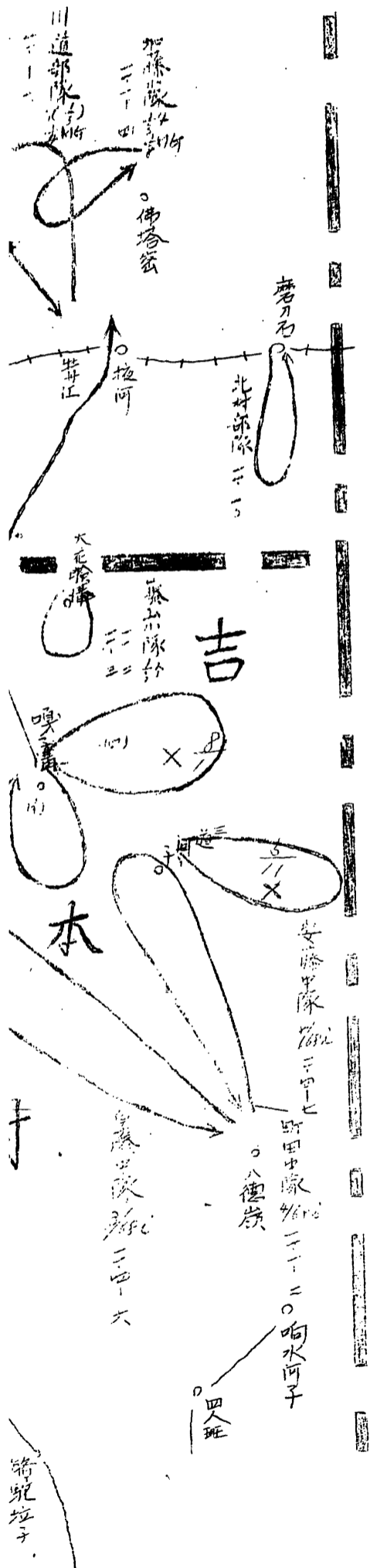
分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3版以上のため
文書等名	東部地区防衛隊討伐第2期に於ける部隊行動要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

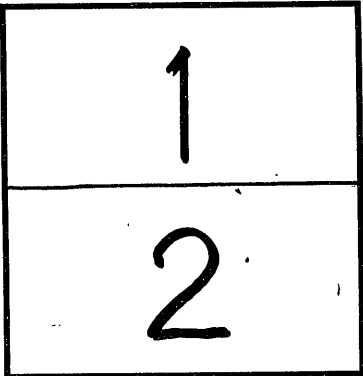
行隊部ルケ於
(日十月一十)

二期二第伐討隊衛防區地部東
日一月一十自於)

附圖第三其二



分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	東部地区防衛隊第2期に 於ける部隊行動要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

于隊部ル
十一月十日

於二期二第隊衛防區地部東
(十月一十自於)

附圖第三其ノ三

